

令和6年度 広報広聴特別委員会行政視察報告書

1 視察日

令和6年11月13日（水）、14日（木）

2 視察先及び視察事項

大阪府八尾市役所 大阪府八尾市本町一丁目1番1号
議会だよりの充実について
市議会×高校生プロジェクトについて
議会の出前講座について

奈良県王寺町役場 奈良県北葛城郡王寺町2-1-23
議会だよりの取り組みについて

滋賀県栗東市役所 滋賀県栗東市安養寺一丁目13番33号
議会だよりの取り組みについて

3 参加者

委員長 野田 かつひこ
副委員長 本田 教治
委員 田代 まさよ 山田 智志 みずの まり 和田 樹典 有井 弥生
北山 浩樹
議長 森藤 文男
随員 議会事務局議会総務課 主任 荻本 恵
計10人

4 視察内容

(1) 八尾市役所 議会だよりの充実について
市議会×高校生プロジェクトについて
議会の出前講座について



↑八尾市の
議会だよりはこちら

説明者 八尾市議会事務局議事政策課 係長 浅野 佐和
八尾市議会事務局議事政策課 主査 菱井 正人

対応 八尾市議会議長 田中 慎二

※ 参考 八尾市 人口 259,461人（令和6年10月31日）、面積41.72km²、議員数26人

○ 八尾市の概要、視察事項

八尾市は、昭和33年5月から議会だよりを発行し、視察時の令和6年11月13日時点で第327号まで発行されている。以前は「市政だよりの」と「議会だよりの」を分けて各世帯へ配布していたが、配布回数の削減の要望があったことにより、平成11年から合冊での発行となっている。年間5回（定例会

号4回・臨時会号1回) 発行しており、発行部数は1回あたり140,000部となっている。

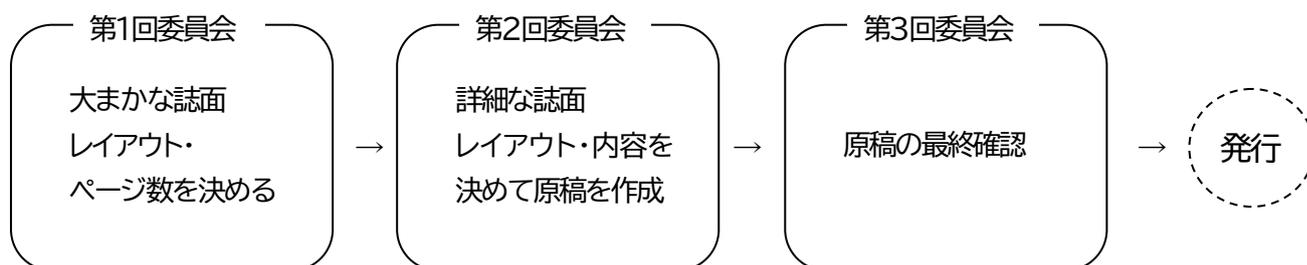
また、本市では「市議会×高校生プロジェクト」を行っており、具体的な取組概要や効果などについて調査研究を行った。

*説明事項

◆ 議会だよりについて

規格はA4で、表紙と裏表紙はフルカラー、その他は2色刷りとなっている。発行時期は各定例会の翌月20日に発行している。作成にあたっては「議会だより編集委員会」を設置しており、委員は7名で無所属を除く各党派より1名、委員長は副議長という構成になっている。発行に係る委員会開催数は3回で、おおよそ下記のような流れになっている。

また、通常の議会だよりに加えて点字版と音声版も業者委託で作成している。



◆ 市議会×高校生プロジェクトについて

開かれた議会の推進活動の一環として、高校生に議会をより身近に感じてもらうことを目的に平成29年度から取り組んでいる。

取り組み内容は、市議会だよりの表紙や題字に高校の部活の作品や活動写真を採用したり、表紙に参加してもらった学生へのインタビューを編集委員が行って交流を図り、裏表紙に記事として掲載したりしている。これらに係る取材や写真撮影は議会だより編集委員会委員が持ち回りで担当している。効果としては、インタビューなどを通して議員と生徒が直接関わることで、互いに身近に感じられるきっかけに繋がっている。

このプロジェクトができた経緯は、市内高校の先生と意見交換をした際に「主権者教育の推進」、「文科系部活動の表現の場」という2つのニーズがあったことから始まった。それらのニーズを汲み取り市内高校生徒の美術作品、書道作品、写真作品などを掲載し、掲載した作品の生徒へのインタビューを行うようになったことが本プロジェクトに繋がった。八尾市内には公立、私立を含め5つの学校があり、順番に各学校の掲載をしている。2巡目になった時から、文科系だけでなく学校が推進している部活動にもスポットを当てていくことになった。

◆ Meet&Greet with 八尾市議会について

平成30年度から主権者教育の一環として、生徒に議会への関心を持ってもらい身近に感じてもらうことや、生徒の意見を議会だよりに反映させてより良い誌面とすることを目的に実施されている。「市議会×高校生プロジェクト」で取材した生徒会や部活動の生徒に参加してもらい、その時に出た生徒からの意見を議会だよりなどに反映しており、平成30年度は「議会の広報について」、令和元年度は「議会の動画配信について」をテーマに座談会を実施している。進め方として、なるべく生徒が話しやす



八尾市議会の議場にて

い配慮をするために、音楽をかけたり意見交換前にアイスブレイクを入れたりしている。座談会の効果としては、議会だよりに座談会での特集ページを載せることで、高校生が見るきっかけに繋がった。

また、生徒から議会が何をしているか分からないといった意見が多くあったが、座談会を通して理解を深めることができ、議会への興味へと繋がったとのことである。さらに、議会だよりのレイアウトについても生徒の意見を役立てているとのことである。具体的には、議員の名前にふりがなをつけたり、余白を増やしたりした。座談会では SNS での内容発信についても意見があり、新たな議会情報の発信の手法として「X」と「facebook」を活用するきっかけとなった。投稿内容は議会日程やお知らせがメインだが、閉会中は議会の豆知識やサブ情報を投稿している。課題として、現在は議会だより編集委員会が実施しているが、議会全体で企画運営する必要性を検討する必要があると感じているとのことである。

◆ 中学生との座談会について

過去に1回開催しており、主権者教育の一環として議員と直接関わる機会を得ることで、議会への関心興味を持つこと、議会の制度を分かりやすく若い世代へ発信することを目的とした。内容としては、議会や議員に関する疑問などを事前に中学生に考えていただき、それに対して議員が答えるという座談会形式で行った。その内容についても、議会だよりの特集ページに掲載した。

◆ 議会開会ポスターについて

平成30年9月定例会から、市民の皆さんに関心を持ってもらうための広報として市議会開会ポスターを制作している。ホームページや市役所庁舎内、駅などに掲載することで、広く周知や興味関心を持つきっかけ作りとして掲示している。

(2) 奈良県王寺町 議会だよりの取り組みについて

説明者 王寺町議会事務局議事庶務係 係長 村田 大地

対 応 王寺町議会事務局副議長 小山 郁子



↑王寺町の
議会だよりはこちら

※ 参考 王寺町人口 23,706人（令和6年10月30日）、面積 7.01km²、議員数12人

○ 王寺町の概要、視察事項

王寺町は議会広報紙を令和5年8月に全面リニューアルし、「あなたと議会をつなぐガイドブック」をコンセプトに年4回発行している。リニューアル後の広報紙が「令和5年度町村議会全国広報コンクール」で全国10位に入賞しており、その経緯と見やすい議会だより作成について調査研究を行った。



王寺町役場にて説明を受ける

* 説明事項

◆ リニューアルの経緯とターゲット

きっかけは、過去に町広報紙担当をされていた職員の村田氏が議会事務局へ異動し、以前から議会広報に課題を抱えていた議員とともにリニューアルを提案したためである。村田氏は町広報紙担当の時から

自身で勉強されてきた経験を生かし、議会広報編集委員会等でターゲットとコンセプトの必要性について提示し、委員で話し合いを進めていった。本来、議会だよりは全住民に読んでいただきたいが現実的には困難であるという前提のもと、まずはターゲット層を決定した。具体的には王寺町は「レッドタウン」という特性から住民に子育て世代が多く、20～40代の女性をターゲットにすることで口コミでの拡散を期待した。そうして決めたターゲットに対して、好まれやすいカジュアルな紙面とはどのようなものか、コンセプトや編集方針、デザインの色使いやフォントについて話し合いや提案を進め、現在の広報紙が出来上がった。

◆ リニューアル後の市民の反応

議会だよりとLINEをクロスメディアに行ったことで住民の行動が変わり、本会議の視聴回数が6倍に伸びた。

◆ 見やすい議会だよりの手法について

一般論として、読者が読むか読まないか判断するのは0.3秒と言われており、プッシュ型である議会広報紙を受け取った市民に選んでもらうためにはレイアウトが重要である。それを踏まえて編集方針を「①町民の参加」、「②脱・報告書」、「③読みやすいレイアウト」、「④文字を少なく写真を多く」とした。

① 町民の参加

- ・町に関わる全ての人を誌面に登場
- ・重要案件は議会と町民それぞれの視点を掲載
- ・声を「見える化」するためにWEBアンケートで企画や構成の意見を常に聴く(毎号二次元コードでアンケートを掲載)

② 脱・報告書

- ・全ての審議結果を均等に掲載するのではなく、関心が高い案件に優先順位・メリハリをつける
- ・議員の人柄が分かるようにコメント掲載(毎号、ひとつのテーマをもとに議員一人ひとりのコメントを掲載。内容も硬いものではなく「どんな子どもだった？」など親近感がわく内容)
※このコメント欄は町民から一番人気のコンテンツになっている。
- ・行政用語や議会用語は言い換えや解説を入れる

③ 読みやすいレイアウト

- ・キャッチーな表紙
- ・議会を身近に感じてもらう巻頭企画
- ・整理された情報
- ・近所の人々が載っている親近感
- ・余白を生み出し、ユニバーサルデザインへ(ユニバーサルデザインは、見やすい・読みやすい・理解しやすい)

④ 文字を少なく写真を多く

- ・情報量が多い案件は町公式サイトへ誘導
- ・見出しは大きく簡潔に
- ・文章はスリム化を図る
- ・読み手を第一に考える
- ・簡潔でやさしい表現にして、文体を統一

このような方針に沿って作成することで、アンケートの回答に60代の女性から「リニューアルの大英断に感謝」、40代の方から「議会だよりを読んだことはなかったが、これから愛読します」などの意見があった。

議会だよりは、まちに関わる全ての人との繋がりを広報で作っていくためのツールの1つであるべきとのことで、もしリニューアルをするなら以下の4つが大切だと説明を受けた。

- ① コンセプト・ターゲットを決める
- ② 議会、事務局双方がUD（ユニバーサルデザイン）思考を共有する
- ③ 専門家にアドバイスを求める
- ④ 議員の皆さんは企画・取材を行う

(3) 滋賀県栗東市 議会だよりの取り組みについて



説明者	栗東市議会議会広報編集特別委員会委員長	伊吹 裕
対 応	栗東市議会議長 栗東市議会事務局 議事課長	中野 光一 藤井 真理子

↑栗東市の
議会だよりはこちら

※ 参考 栗東市人口 70,439人（令和6年10月30日）、面積 52.69km²、議員数18人

○ 栗東市の概要、視察事項

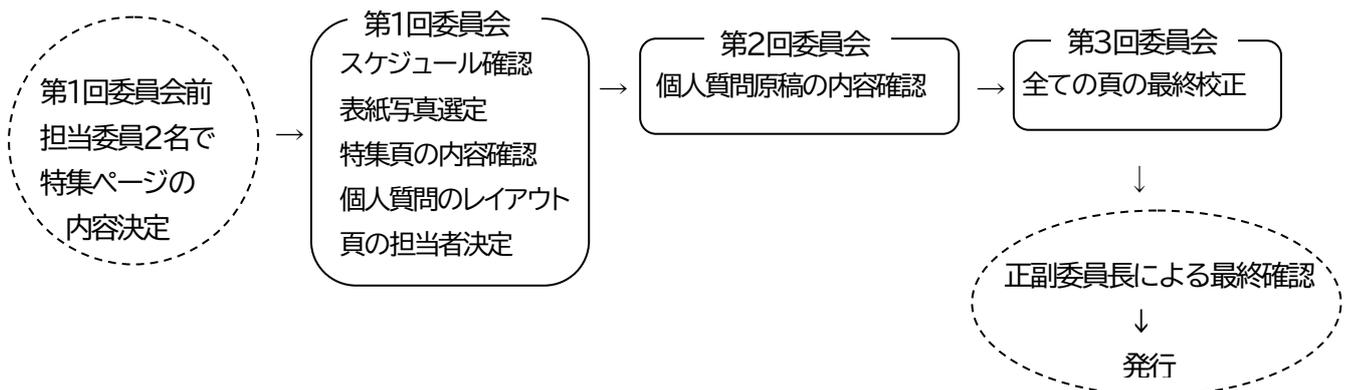
栗東市は、昭和47年4月から議会だよりを発行し、視察時の令和6年11月14日時点で第212号まで発行されている。令和3年11月号である第200号の際に大きくリニューアルし、「市民に分かりやすく、手に取ってもらえる広報紙」をコンセプトに年4回発行している。発行部数は1回あたり約29,300部で、栗東市の広報紙に折り込む形で配布している。本市の市民と議会をつなぐ広報紙としてのあり方や紙面の工夫について、調査研究を行った。

* 説明事項

◆ 議会だよりについて

規格はA4で、表紙と裏表紙はフルカラー、その他は2色刷りとなっている。変動はあるが基本的に12～14頁である。作成にあたっては「議会広報編集特別委員会」を設置しており、委員は6名で、3つある常任委員会から党派関係なく2名ずつ選出している。

発行に係る委員会開催数はおおよそ3回で、下記のような流れになっている。



◆ 特色ある紙面の工夫について

【表紙】

基本的には委員から提出された写真の中から、委員による多数決で決める。ただし、委員以外の議員から提出があった写真も使用することもある。最近の特集ページに連動した写真を使うことが多い。

【特集ページ】

6名の委員の中から2名ずつ選び、特集ページと呼ばれる頁の内容を企画・作成し、必要に応じて現地へ取材を行っている。

◆ 議会だよりの愛称「大きな栗の木の下で」の由来について

栗東市議会だよりは、「大きな栗の木の下で」という愛称を強調して発行している。由来は2つあり、1つ目は「童謡『大きな栗の木の下で』のように多くの世代に親しまれる広報紙にしたい」、2つ目は「まちに残る伝説に基づく、栗東市の議会広報紙ならではの愛称」にしたいという思いからである。栗という文字は市の名前にも入っており、「大きな栗の木の下で、みんながひとつになりながら、個性を尊重し合い、ともに助け合い、助け合うことができるまち」という「共生」の願いが込められて名付けられた。



栗東市役所にて説明を受ける

◆ 多言語対応、音訳、点訳について

市の広報紙が多言語対応しているため、それに折り込む形で発行している議会だよりのホームページ上でAIによる翻訳化されたものを読むことができる。対応言語は10言語で、栗東市では母国語にポルトガル語を話す方が多い。

音訳・点字版については、申請があった場合に作成し、お渡ししている。現在の利用者として、音訳は6名、点訳は1名である。

5 所感

○ 八尾市役所

当初の視察目的である「主権者教育」が、特徴的かつ積極的に取り組まれている。一般的には自治体議会ではその主管である小中学校の児童生徒をその対象としがちであるが、八尾市ではその対象が高校生が中心であることにある意味新鮮な思いを抱いた。むしろ、高校生の一部は既に有権者であることを含め、最も有権者（主権者）に近い年齢層であることを考えれば、八尾市の取り組みはまさに的を射た取り組みである。

○ 王寺町役場

全国的にも名を馳せている「王寺町議会だよりの編集・発行がどのように行われているかが、王寺町の視察の眼目である。手に取って開くとそのまま読み続けたいような誌面は、編集担当の係長村田大地氏の広報誌編集への情熱とその力量に負うところが大きい。逆に編集委員による「手作りの編集の郡上市議会としては、王寺町の発行体制をそのまま真似ることは困難かもしれない。ただ、村田氏が示された広報誌編集における4つのポイント（①町民の参加、②脱・報告書、③読みやすい

レイアウト、④文字を少なく写真を多く)などの優れた編集手法は大いに参考にできるものと思われる。

○ 栗東市役所

広報委員会委員長の伊吹氏の穏やかな説明と、議会だより発行体制がわが郡上市議会に比較的似ていることから、何となく親近感を感じながら拝聴できた。なかでも、編集委員会の構成や市民目線からの編集、そして読むことに障害を抱えている人への配慮など、今後考えなければならぬことが見えてきた。

* 3自治体の「議会だより」の発行体制を全体的に総括すると、そのキーワードは「読んでもらえる議会だより」であろう。硬くて難しい、字ばかりの議会だよりを、いかにして面白く気軽に読んでもらえるようにするか、3自治体いずれもこの課題に腐心し、その克服に努力している。

6 視察経費

視察費	444,400 円 (随員職員1名分旅費を含む)
一人平均	49,378 円 (委員9名)

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和6年12月20日

郡上市議会議長 森藤 文男 様

郡上市議会広報広聴特別委員会
委員長 野田 かつひこ